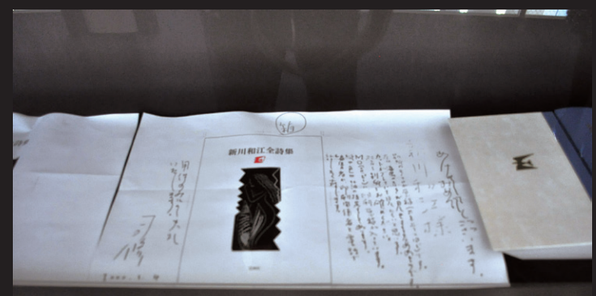
新川和江
略歷

1929年(昭和4年)茨城県結城郡絹川村(現結城市)小森に生まれる。県立結城高等女学校(現結城第二高等学校)時代、下館町(現筑西市)に疎開してきた詩人西條八十から詩の手ほどきを受ける。戦後上京し、少女雑誌や学習雑誌に詩や小説を執筆する。1953年(昭和28年)、第一詩集『睡り椅子』を刊行。1960年(昭和35年)『季節の花詩集』で小学館文学賞受賞。他受賞作多数。1981年(昭和56年)、日本現代詩人会理事長に就任。1982年(昭和57年)に産経新聞一面に連日掲載の「朝の詩」が始まり、2018年(平成30年)までの36年間選者をつとめた。1983年(昭和58年)、吉原幸子とともに女性詩人を中心とする季刊詩誌『現代詩ラ・メール』を創刊し、1993年(平成5年)の終刊まで編集に携わり女性詩人の活動を支援した。

1984年(昭和59年)、結城市民栄誉賞受賞。2000年(平成12年)、勲四等瑞宝章を受章。2001年(平成13年)、結城市名誉市民の称号を贈られ、2004年(平成16年)、ゆうき図書館名誉館長に就任。同年11月、詩を通して人生などさまざまなことを語り合える場「センダンの木の集い」を創設し、母校絹川小学校で開始する。

2008年(平成20年)、「新川和江賞〜未来をひらく詩のコンクール〜」を創設。

『新川和江全詩集』花神社 2000年(平成12年)刊行。



全詩集・装釘は芥川賞受賞作家でもある画家の 司 修氏による。

石像「野の花」(結城市民情報センター敷地内)

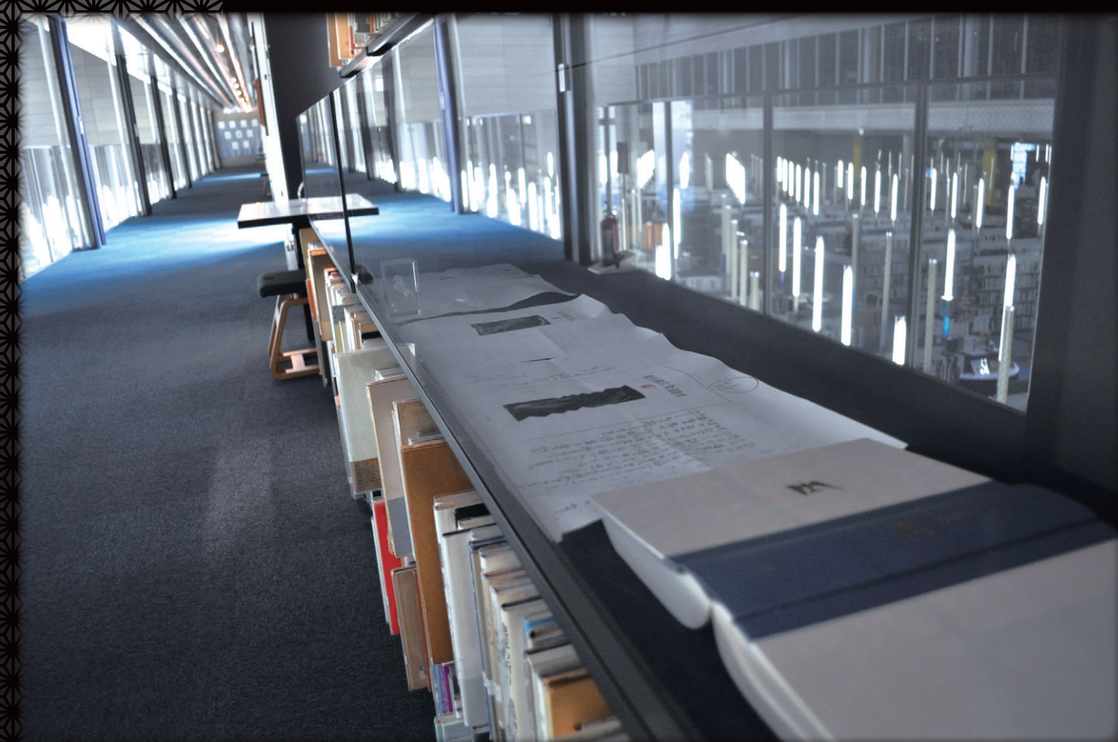
2012年(平成24年)新川和江さんから寄贈された。
結城市のすべての子どもたちを、いつまでもやさしい暖かさで見守り続けたいという気持ちが込められている。

新川和江名誉館長室 (1階)

直筆屏風、西條八十・大岡信直筆の掛け軸など、貴重な資料が展示されている。

発行：2021年(令和3年)2月
(公財)結城市文化・スポーツ振興事業団　結城市民情報センター・ゆうき図書館
〒307-0051 茨城県結城市国府町一丁目1番地1　TEL 0296-34-0150

新川和江コレクション



ゆうき図書館ギャラリー 1・2

新川和江コレクション

ゆうき図書館の開館に際し、詩人で結城市名誉市民でもある新川和江さんから、
約1万冊の自身のコレクションを譲り受けました。
それらは「新川和江コレクション」として、師である西條八十のもとへはじめて持参した
詩のノートをはじめとした新川和江さんの詩作にかかわる
貴重な資料などとあわせ、常時公開されています。
新川和江さんと共につくった、ゆうき図書館の
「新川和江コレクション」をご堪能ください。

来館者へのメッセージ

女学生の頃わたくしは、小さな本箱を持っていて、その棚を、詩集でぎっしり埋めたいものだ、と切なく願っていました。戦争中で、町の書店でも、詩集と名のつくものは、ほとんど姿を消していたからです。平和な時代が到来して、わたくしは東京に移住し、詩に埋もれて生きるようになりました。いつの間にか、わたくしの書棚には、夥しい量の詩集が並ぶようになりました。そうして今度は詩集たちが、ほかの人にも読んで欲しい、と切なく願っていることに、気づいたのです。

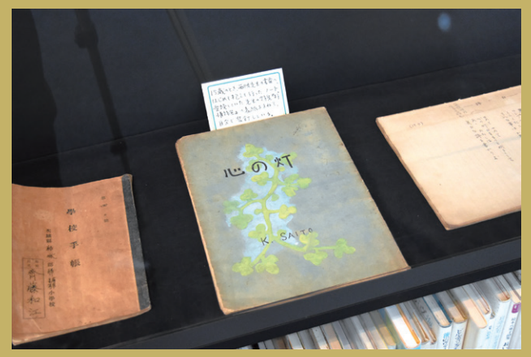
幸い、郷里の結城市に新設された図書館が、それらの蔵書を受け入れてくださいました。わたくしの心もいそいそと、詩集といっしょに里帰りいたしました。

みずみずしい感性の少年少女や、お年は召されても柔らかな優しい心をお持ちの方々が、ここを訪ねてくださることを、わたくしの心は詩集といっしょに、日々お待ちしています。

新川和江

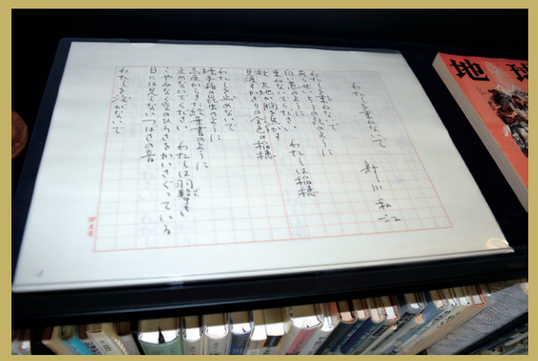
ご来館の皆さま へ

展示資料の数々



15歳のとき、西條先生の書斎へ、はじめて抱えて行ったノート。愛読していた先生の詩集『抒情詩選』の表紙をまねて、自分で装釘している。（直筆解説より）

西條八十先生からの書簡のひとつ。（直筆解説より）



代表作の一つ「わたしを束ねないで」。上皇后陛下美智子さまがご愛読、英訳されたことでも知られ、1984年（昭和59年）に中学校国語の教科書に掲載されてから、現在もなお多くの生徒が学んでいる。

「わたしを束ねないで」の初出誌。
1966年「地球」42号。（直筆解説より）

1948年、西條先生の書斎に出入りしていた 竹川浩・岡田勇氏らと「つくば詩話会」を結成。ガリ版刷りの同人詩誌『玻璃』を発行した。写真は石下、「釜仙」に於いての発会式。（直筆解説より）

「少女ロマンス」昭和25年10月号。はじめて書いた少女小説が掲載された雑誌。以後、花物語が連載された。（直筆解説より）

1983年（昭和58年）、吉原幸子とともに女性詩人を中心とする季刊詩誌『現代詩ラ・メール』を創刊。
1993年（平成５年）の終刊まで編集に携わり、女性詩人の活動を支援した。